



第2回

岡山済生会

子どもメディカルラリーを開催

整形外科医長
近藤 秀則

あいにくの雨模様の中5月13日(日)、岡山済生会総合病院で第2回岡山済生会子どもメディカルラリーが開催されました。午前中に救急科の野崎主任医長が心臓マッサージ・AED(自動体外式除細動器)の使い方、私が119番通報・外傷の応急手当てなどの講義を行い、午後から3人1組のチームに1人のチューター(相談役)を加え、敷地内に設置した5つのブースをめぐり、その対応能力を競いました。

昨年の10チーム30名から、今年は参加人数が大幅に増え17チーム51名の小学5・6年生が参加してくれました。岡山県済生会の職員のみならず岡山済生会看護専門学校の学生、他施設の医療関係者や救急・消防関係者など総勢152名のスタッフが、それぞれの役割を担い、朝早くから夕方まで充実した1日を過ごしました。

もともとメディカルラリーは、医師や看護師、救急救命士からなるチームが救急救命の腕を競う大会で、チェコが発祥と言われています。日本でも各地で開催されているラ

リーを子ども向けにリメイクし、平成24年に大阪府済生会千里病院の千里救命救急センターが開催したのが最初です。子どもただけにいるときに、誰かがけがをしたり、倒れている人を発見した際に、自分たちの身を守りつつ、適切な対応や手当てができるようになればとの思いから始まりました。岡山での開催は日本で2番目であり、昨年に引き続き2回目となります。今回子どもメディカルラリーでも、われわれが想像していなかった子どもたちの柔軟な発想や行動力に、スタッフ一同驚き、感心させられ、多くの元気と活力をいただきました。

今後も継続することに意味があると思っています。開催には多くの方のご尽力を必要としますが、真剣なまなざしで課題に取り組む子どもたちと時間を共有することは、われわれ大人にとっても意義深いものであり、これからも多くの子どもたちに命の大切さ、人命救助のすばらしさとその技術を学べる場所を提供していきたいと考えています。



想像を超えた子どもたちの 発想力と優しさに触れて

8階東病棟看護師長
豊田 由紀

平成30年5月13日、第2回となる岡山済生会子どもメディカルラリーを開催しました。

午前中の講義には、新たに災害避難についても盛り込みました。「困っている人を助けたい!」という思いはとても大切ですが、場合によっては自分の身を守るために「逃げる」ことも大切だということを学んでもらいたいと思いました。

午後からは3つのシナリオステーション(ST)と2つのサービスステーション(SS)で活動し、点数を競いました。

ST1: 学習塾の先生が突然倒れて心肺停止状態となるという設定で、子どもたちは救急要請、心肺蘇生を行いました。「私は119番通報するよ」「私はAEDを探してくる」と、3人で協力して心肺蘇生法を実施しました。

ST2: お祭りに行った帰りに交通事故現場に居合わせるといった設定です。119番通報をし、けがをしている人の応急手当てをします。近寄ってもよいか安全確認をする、感染に注意してけがの応急処置をすることが重要です。まわりにある物を利用して患部を固定、スーパーの袋で感染防止しながら圧迫止血も行いました。

ST3: 今回初の試みである「災害避難」です。日本は地震大国であり、近年では東日本大震災、熊本大地震、鳥取

地震が起こっており、多くの方が犠牲になっています。地震発生時に身を守り、揺れがおさまったら安全に避難することが重要です。足が不自由で杖を探す老人に「僕が杖のかわりになるよ」と一緒に避難を促した少年に感動しました。

SS1: 普段の生活ではなじみのないトランシーバーを使って、見えない相手にどうしたら簡潔にうまく情報を伝えられるか競いました。

SS2: 目隠しをした二人が中央にボールペンをくくりつけたひもを腰に巻き、残った一人が誘導して一升瓶の中にボールペンを入れるゲームです。友達の指示を信じて協力し合うことがポイントです。

また、岡山市消防の協力で救助のデモンストレーション、はしご車見学、消火器訓練などを行いました。

「子どもたちに命の大切さを学んでほしい」と思った小さな希望から、この企画に賛同してくださる多くの方の協力を得て、今年も子どもたちの想像を超えた発想力と、感動の優しさに触れることができました。今回優勝したのは市内の小学校から参加してくれた5年生の少年たちです。

子どもだとあなどってはいけません。来年もスーパーキッズたちに出会える日を楽しみに待っています。